

販売することで、地元の農業に還元

・リサイクル率日本一の町としての知名度向上により、国内外の年間約44回の視察受入による地域経済への貢献に加え、広報効果により平成27年度「ふるさと納税」寄付額が全国町村で第1位（寄付額総額約27億円）となり、町の財政及び自治会の活動資金の一部に寄与

【経済分野】

・自治会による児童から高齢者・定住外国人と共に、年間3回の集落一斉ボランティア清掃等のコミュニティ活動の実施

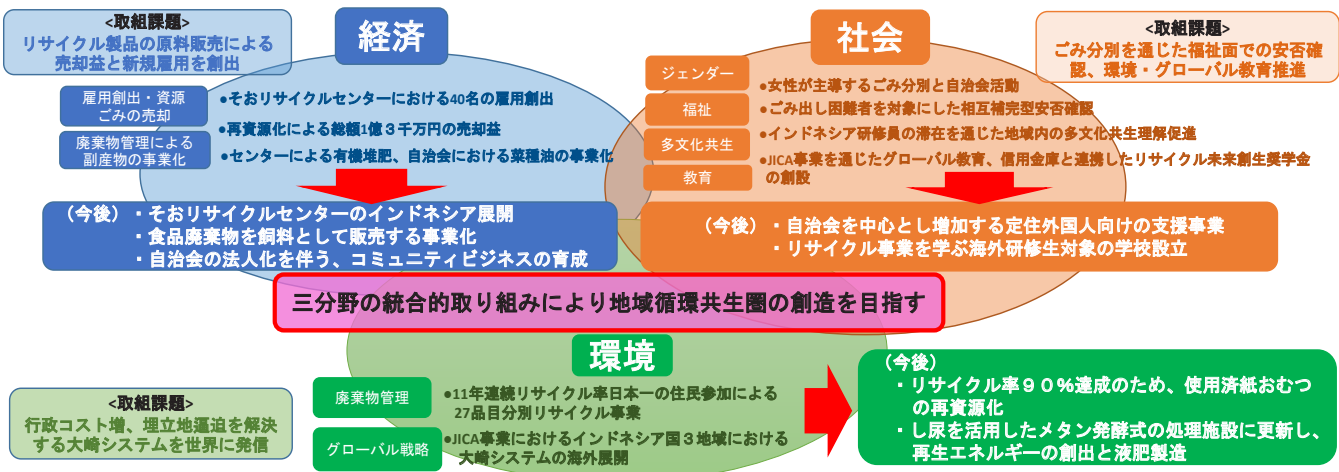
・教育分野では、学校及び家庭での環境学習により、小学生は「ごみ捨てリサイクルする」と言い換えるほどの環境意識の向上

・平成30年より、町外の大学に進学した学生が就職等で町内に戻ってきた際に一部の奨学金が免除になるごみ売却益を活用した「リサイクル奨学金」を信用金庫、大学と共に創設し、年間20名の高校卒業生に対する奨学金の募集を開始

鹿児島県大崎町による住民参加による低コストかつ持続可能なリサイクル事業の国際展開と人材育成を中心としたSDGs型リサイクル地域経営

【現状】「SDGs型リサイクル地域経営推進事業」を通じて、11年連続リサイクル率日本一の住民主導による一般廃棄物リサイクル事業の持続可能な事業経営、ごみ分別によるコミュニケーションを通じた高齢者・定住外国人との多文化共生コミュニティ形成、リサイクルの概念を活用した環境・グローバル人材育成事業を実施中。

【今後】「SDGs型リサイクル地域経営推進事業」を加速すべく、町内のSDGs理解促進と次期総合計画策定のため、2018年度内にSDGs推進宣言を条例として策定し、全役場職員及び住民向けにSDGs理解ワークショップを通じ、各町民によるMySDGs宣言を策定予定。また、地域の国際戦略としてのSDGsを共通目標としたインドネシアとの自治体連携を検討中。以下の各分野による提案事業を取りまとめ、次期自治体SDGsモデル事業に応募予定。



大崎町SDGs (持続可能な開発目標) 推進宣言をおこないました!

2019年1月14日(月)、東町長は大崎町SDGs推進宣言をおこないました。

大崎町では、リサイクル事業を中心とした、社会・環境・経済をつなぐ、総合的かつ国内・国外のさらなる取組みをおこないます。また、多様な関係主体とのパートナーシップを構築し、『住民参加による低コストかつ持続可能なリサイクル事業(大崎システム)』の国際展開と人材育成を中心とした『SDGs型リサイクル地域経営』のさらなる展開にも取組み、持続可能な社会の実現を追究していきます。



SDGsに取り組んでみよう!

『マイバックを持つ』『車を使わず歩く』『こまめに電気を消す』などもSDGsです。

SDGsの目標達成のために私たちが今からできることが身近にたくさんあります。これは、SDGsの目標は互いにつながっており、さまざまな課題が複雑にからみあっていることを意味しています。

あなたの小さな行動が未来を変える大きな動きにつながります。SDGs達成のためにできることを考え、取組んでいきましょう!



カードゲームでSDGsを体験する参加者の様子(東京有楽町大崎町FUNDAY)